

科目名 Course Name	ソーシャルワークの理論と方法 I Social Work Theory and Methods I			ナンバリング No.	I1-010		
年次	1 年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	大熊信成						
連絡方法	C-ラーニングで対応。または福祉棟 3F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。						
必修/選択	選択(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)						
関連 DP	DP2、DP3、DP4						
授業の概要と 到達目標	<p>相談援助における人と環境の相互作用に関する理論について学習し、援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。さらに相談援助のプロセスとそれに係る知識と技術について理解を深めていく。</p> <p>①相談援助における人と環境の相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの知識を修得できるようにする。</p> <p>②社会福祉援助の対象と様々な実践モデルとアプローチについて説明できるようにする。</p> <p>③相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解を深め、説明できるようにする。</p> <p>④ソーシャルワーカーとして、総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を身につけることができるようにする。</p> <p>⑤社会福祉士国家試験に対応できる知識を身につけることができるようにする。</p>						
授業の方法	基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーを実施し、グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。また必要に応じて小テストを実施するとともに社会福祉国家試験対策も行い、知識の定着を図る。						
学習成果	L01						
	L02	社会福祉に関する相談援助活動の専門職としての知識および技術を学び、具体的かつ実践的に創造することができる。					
	L03	ソーシャルワーカーとして総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を養えることができる。					
	L04						
課題に対する フィードバック	毎回の授業でリアクションペーパーを実施する。リアクションペーパーは振り返りを行い全員でシェアをする。また試験対策を行い、授業内で解答・解説を行う。						
教科書/ 参考図書	『ソーシャルワークの理論と方法』弘文堂 他 授業中に指示し、資料を配布する。						
履修上の留意点 やルール等	一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。原則、「ソーシャルワークの理論と方法 I」だけの履修は認められない。「ソーシャルワークの理論と方法 II」も履修すること。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。						
担当教員の実務 経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。		20		
レポート/作品	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価である S は意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。		20		
発表					
小テスト					
試験	論述、選択記述式の定期試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。			60	

その他				
合 計			40	60

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法・授業中の留意点など)
	事前・事後学習	相談援助業務とはどのようなものなのかについて各自調べておくこと。
2	授業内容	人と環境の相互作用(システム理論、生態学理論)
	事前・事後学習	人と環境の相互作用についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
3	授業内容	人と環境の相互作用(バイオ・サイコ・ソーシャルモデル)
	事前・事後学習	人と環境の相互作用についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
4	授業内容	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
	事前・事後学習	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについてノートにまとめること。
5	授業内容	ソーシャルワークの実践モデルとは
	事前・事後学習	実践モデルについて各自調べておくこと。
6	授業内容	ソーシャルワークのアプローチについて 治療モデル・生活モデル
	事前・事後学習	治療モデル・生活モデルについてテキストを参照にしてノートにまとめること。
7	授業内容	ソーシャルワークのアプローチについて ストレngthモデル・心理社会的アプローチ
	事前・事後学習	ストレngthモデル・心理社会的アプローチについてテキストを参照にしてノートにまとめること。
8	授業内容	ソーシャルワークのアプローチについて 機能的アプローチ・問題解決アプローチ
	事前・事後学習	機能的アプローチ・問題解決アプローチについてテキストを参照にしてノートにまとめること。
9	授業内容	ソーシャルワークのアプローチについて 課題中心アプローチ・危機介入アプローチ・行動変容アプローチ
	事前・事後学習	課題中心アプローチ・危機介入アプローチ・行動変容アプローチについてテキストを参照にしてノートにまとめること。
10	授業内容	ソーシャルワークのアプローチについて エンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチ・解決志向アプローチ
	事前・事後学習	エンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチ・解決志向アプローチについてテキストを参照にしてノートにまとめること。
11	授業内容	ソーシャルワークのアプローチについて バイステックの7つの原則①
	事前・事後学習	7つの原則についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
12	授業内容	ソーシャルワークのアプローチについて バイステックの7つの原則②
	事前・事後学習	7つの原則の現代的解釈について自己の意見をまとめておくこと。
13	授業内容	ソーシャルワークの過程について ケースの発見・インテーク・アセスメント・プランニング レポート「インテーク面接における留意点」提出は第14回の授業日
	事前・事後学習	インテークにおける留意点についてノートにまとめておくこと。レポートを作成すること。
14	授業内容	ソーシャルワークの過程について 支援実施・モニタリング
	事前・事後学習	ソーシャルワークの過程についてまとめておくこと。
15	授業内容	ソーシャルワークの過程について 支援の終結と事後評価・アフターケア 授業のまとめ
	事前・事後学習	ソーシャルワークの過程についてテキストを参照にしてまとめること。試験対策を行うこと。